

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	原井川建設有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	H23年12月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他所にはない交流館があることで、地域住民や各種演芸ボランティアをいつでも受け入れることが出来る。そのことにより利用者により楽しみが増える。活きた表情が見られる。時間が経てば忘れることであっても、「今」この瞬間を大切にすることが「あいの里」のポリシーである。また、家族との信頼関係を第一に考えることが、お互いが協力し合って利用者を支えていけると信じている。広い菜園で季節の野菜をふんだんに食べられることも、この上ない幸せだと思う。植え付け、管理全般をして頂く代表者のおかげである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある当事業所は、四季の移ろいを肌で感じる事ができる。広々とした敷地には畑を作り、季節の野菜が数多く育っている。管理者を中心に全職員が「あいの里は、みんなが一つの家族です」の基本理念に沿い、事業所をひとつの大きな家族として考え、利用者や家族の思い、意向を大切にしながら、穏やかに楽しく暮らしていけるよう支援している。事業所の代表者、管理者、職員がしっかりと情報交換ができています。利用者の生活を職員がしっかりと支えている。落ち着いた家庭的な雰囲気のある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームあいの里
(ユニット名)	1F(さくら)
記入者(管理者)	
氏名	眞田ハル子
評価完了日	H23年12月10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を常に意識しながら日々のケアに努めている。更にサブテーマを掲げ、ホーム内の目につきやすい所へ貼付しお互いに意識し実践している。</p> <p>(外部評価) 管理者の信念でもある「あいの里はみんなが一つの家族です」は、事業所をひとつの家族と考え、地域とのつながりや利用者の思いを大切にしたい理念となっている。理念を基に事業所の毎年の目標、さらに、職員一人ひとりが目標を立て、月1回の職員会議の際に共通認識を持ち「家庭的な雰囲気でのケア」の実践に取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) ホームは開設当初から自治会に加入し、共同作業や毎月の常会には、代表者が参加している。地域の行事には利用者も参加している。祭りには、牛鬼やお多福の訪問、亥の子には子供達がきてくれる。町内外から演芸ボランティアの方も多く来て頂き、近所の方にも呼びかけて一緒に楽しんでいる。ダウン症の学生のボランティアも受け入れて3年になった。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入し、地域の一員としての役割を担うとともに、行事を把握して地域の草刈りや清掃活動等に代表者が積極的に参加している。また、事業所内の交流館で行われる演芸会開催時は、地域の方に呼びかけて大勢の参加で賑わう等、日常的に交流が深まっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 今年も認知症の講演会に地域の各種団体や福祉関係事業所等にチラシを配り参加を呼びかけ、多くの方が参加して頂き、とても良かったので、また機会があれば誘って欲しいと喜んで頂いた。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議は定期的開催している。利用者の状況、サービスの状況、課題等を報告し意見を聴き、サービスの向上に役立てている。委員さんは真剣に討議して頂き、行事等にも積極的に参加協力を頂いている。適宜他施設の管理者もお互いに推進会議に参加し情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、事業所の実態報告、学習会、課題等を報告したり、発展的な会議運営のため講演会や研修会を会議と合わせて行う等工夫している。参加者からは意見も活発に出されていることが、丁寧な記録から読み取ることができる。</p>	<p>認知症高齢者の理解や、地域との交流、協力をより深めるためにも、今後は、運営推進会議に地区消防団長や交番の警察官等にも参加してもらえるよう依頼をし、多角的な視点から意見がもらえるような取り組みに期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 管理者が当市の地域密着型運営委員会の委員をしている関係もあり、市担当者との連携は十分にとれている。市の集団指導や説明会等には必ず参加している。何でも相談でき、担当者は懇切に指導して頂いている。</p> <p>(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して利用者の支援上の課題等について相談したり、介護認定更新の機会等をとらえ、利用者の暮らしぶりやニーズの具体的内容を伝え連携を深めている。また、介護相談員が来訪し、利用者の話を聞き相談に応じるなどしている。その内容については事業所に報告してもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の施錠が夜間のみであり、居室にも鍵はついていない。研修会にも参加し、資料を基に自社勉強会も行って職員の意識の統一を図っている。</p> <p>(外部評価) 職員全員が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日々の業務の中で利用者との慣れからくる言葉の拘束について、職員間で常に注意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待はありえないが、言葉による虐待とまではいなくても、不適切な言葉を使わないように職員会、勉強会等で話し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護の研修会で学んだことを職員にも伝えているが、十分に理解できているとは思えない。今まで必要性がなかったこともある。包括支援センターや社協とも連携をしながら対処して理解を深めていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に十分な説明を行い、改定事項等が生じた場合は十分な期間をとって納得の上同意を頂いている。毎年行う家族会や面会時などにも随時説明をおこなっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や家族会の折りに要望や意見を聴くようにしている。市の介護相談員が3ヵ月ごとに来て頂き、利用者の要望など聴いてホームへ文書で送られてくる。それを職員会で公表し運営やサービスに活かしている。 (外部評価) 運営推進会議を通じて意見や要望をもらっている。また、家族の面会がよくあるため、生活の様子や健康状態を伝え要望を聞き取ることができている。遠隔地の家族には機会あるごとに電話で情報を伝えている。毎月「ホーム便り」を発行し、事業所の様子や利用者の生活状況を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会を開催しており、代表者も必ず参加して職員からの意見や要望を聞き、改善すべきことなどは速やかに検討している。	
			(外部評価) 法人代表者や管理者が、職員の意見を大切に考え十分聞いて反映させてくれることを職員も承知しており、職員会でも意見を言いやすい環境が整っている。職員からも「色々言っています」と笑顔で話があり、事業所を共に良くしていこうとする姿勢が伺われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の勤務状況は代表者も把握しており、希望休もとれる体制である。今年からインフルエンザの補助も実施、賞与の支給など、職員への福利厚生にも力を入れていくと言われた。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常勤、非常勤の区別なく研修には誰でも参加でき、参加費の負担、勤務扱い、時間給支給、市外研修では交通費の支給など学び易い機会を作っている。市内のグループホームとの連携事業にも積極的に参画し研修に参加できる体制作りをしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の主催する「相互研修事業」にも毎年2名ずつ参加、連携事業への参加、各種研修会への参加等を通じ情報交換や交流をおこなっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前には本人と面接を行い、また、家族や関係者から情報を収集して、本人が安心して生活できる環境づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、面会時等に十分時間をとり、話を聞くように努めている。担当者が毎月お便りを書き、要望や心配ごとなど気軽に話して頂けるように早期に家族との信頼関係の構築に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人家族にとって、先ず何が必要かを十分話し合い、状況を見極めながら対応していく。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) それぞれの利用者に出るることや出来そうなことを、一緒にしながらコミュニケーションをとり、利用者が自分も役に立っていることを自覚できるようである。 (仕事の役割分担、見守りなど)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や利用料納入時に管理者も職員も時間をつくり、利用者の状況や家族が気にかかることなど、遠慮なく話せるように努めている。体調変化や受診状況等も電話等でお知らせし、家族の安心につなげている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前からかかっている医療機関を利用することにより、主治医との関係を継続して本人、家族の安心につなげている。地域の行事にも出来る限り参加し、馴染みの方との出会いを大切にしている。 (外部評価) 地域で暮らしてきた利用者が多く、馴染みの人達と出会える場所に出かけたり、招いたりしている。また、家族の面会が多くその人らしい生活習慣を維持できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中はすべての人がリビングで過ごし、お互いが助け合いいたわり合って過ごす場面が多い。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院が長期になり、退居したり特養への転所された場合なども、訪問したり家族と出会った時には様子を聞くなど、関係を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で、本人の思いや要望を知り、出来る限り添えるように努めている。担当職員がより身近な相談者の役割も担っている。担当者を中心にして気づきや情報を全職員が共有して、よりよいケアに努めている。（介護記録、申し送りノート等を活用）	
			(外部評価) 職員は、日頃から利用者に関わる時間を大切にし、会話や表情の中から思いや意向の把握に努めている。入浴時等の介護現場で、思いや希望を聞かせてもらう等している。把握した内容は、申し送りノートや、個人ファイルに記録して職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の訪問調査、関係者（ケアマネ、サービス事業者）家族からの情報、本人からの聞き取り、親戚、友人、知人の面会などで状況を把握するようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録や申し送りで個々の状態を把握し、それぞれが出来る力を活かして生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランの作成や見直し時は、本人や家族の意向を聴きプランに反映させている。状況変化に応じてモニタリングを行い、見直しや臨機応変な対応ができるように努めている。	
			(外部評価) 担当職員と管理者が利用者や家族の意向を聞き、きめ細やかなアセスメントをし、介護計画の原案を作成して職員全員で検討している。完成した介護計画は、家族に説明して同意を得ている。毎月のケアカンファレンスで状況確認するとともに現状に応じて介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録により、日々の暮らし方の様子や体調の変化、心身の状況を把握し、職員間で情報を共有しながら、介護計画を作成し実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者に応じた外出支援、かかりつけ医の受診、他市町の専門医の受診介助、行きつけの理美容室の利用など個々の希望に添った支援を心がけている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域住民、各種ボランティア、高校生、地域の子供達、民生委員、介護相談員、生活支援員等多方面からの支援を受けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前から利用しているかかりつけ医で身体状況の把握が継続して出来、本人家族の安心につながっている。通院介助は概ね管理者が行っており、主治医との連携は十分にとれている。受診状況を個人記録、申し送りで職員に伝えて情報の共有を図っている。	
			(外部評価) 入居後も、利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。看護師である管理者が医療関係者との窓口になり、利用者の健康管理を行っている。受診介助はほとんど管理者が行い、診察結果を家族に報告し、情報共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師は週1回（終日）出勤し、看護面での気づきや助言を介護職に伝え、お互いが情報を交換しながら利用者の健康管理に努めている。技術的な指導も実践を通して行っている。社内勉強会の講師も務めるなど指導者としても頼りになる存在である。（看取り、緊急時の対応）	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は、毎日のように面会し、状況把握に努めている。主治医や病棟看護師長に治療状況や退院の見通しなどを聞き、早期退院に向けて地域連携室とも情報を共有している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状態が悪くなった場合、ホームでの対応には限りがあることを、家族に伝え本人にもどうしたいかを聴いて、主治医に本人、家族の意向を伝えている。看取りについての勉強会も行っているが、まだ看取りを行ったことはない。家族会でもホームの現状での限界も説明している。	
			(外部評価) 入居時、看取りに関する指針に基づき事業所における介護の考え方を説明している。マニュアルや医療連携体制も整えている。しかし、現時点では看取りの経験はなく、職員は少なからず終末期ケアに対して不安を感じているため、学習を深めていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署員による応急処置の指導、演習を年1回行っており、別に看護師の指導による勉強会もおこなっている。マニュアルも作成し、いざと言う時に慌てずに対処できるように訓練をかさねていく。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年1回の消防立会いの通報、消火、避難訓練を実施、その他ホーム単独での避難訓練も年4回程度実施、昨年「緊急連絡網」を使って稼動状況も確認したが、火災については近隣の援助なくしては避難できないことがわかった。地元消防団とも連携し、近隣住民との協力も取り付けている。来年度は近所と相談し消火栓の設置を市に申請する。 (外部評価) 消防署の協力を得て行う避難訓練以外にも、事業所独自で自主訓練を行っている。運営推進会議を活用して災害時の協力を呼びかけ、地域と協力できるよう努めている。また、2階ユニットの入居者が重度化している傾向にあるため、職員だけの避難誘導には限界がある。	災害発生時には事業所職員だけの避難誘導に限界があることを地域の方にも理解してもらい、地域住民の方の参加や協力を得ながら避難訓練を実施し、利用者の安全誘導を確保することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を傷つけない対応、言葉遣いにも気をつけている。入浴や排泄介助においても尊厳と安全面に配慮している。居室は個人の家としての認識を持って対応している。 (外部評価) 言葉遣いについては、会議においても時折触れて話し合っている。管理者は「綺麗な言葉をつかうと丁寧なケアができる」等、利用者に穏やかな口調で話しかけるよう心がけており、個人を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が出来るだけ自己決定や思いを伝えることが出来るように待つゆとりを持って接している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) マイペースを尊重しながら、自発的にできるような支援を心がけている。時には促しなども行っている。 (居眠りばかりしている人に歩きを勧めるなど)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 当日の洋服選び、お出かけの仕度、理美容について希望を聞きながら支援している。身のまわりの買い物も可能な限り本人を伴って行くようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自家菜園の世話、収穫、見回り、料理の下ごしらえ、食後の片付けなど、各人の出来る力を活かして、一緒に食事を楽しく食べることを支援している。	
			(外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでおり、和やかな食事風景である。また、支援の必要な利用者には、職員が横に座りゆっくり、やさしく声かけして援助がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量、1日の水分量の把握はできている。食事は殆んど残す人はいない。水分については若干少なめな人があり、小まめな水分補給を勧め、飲料もあれこれ工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎回食後に歯磨きや義歯洗浄を行っている。歯のない人についても嗽をして口の中に残渣物を残さないように気をつけている。義歯は定期的にポリデント洗浄している。口の中の清潔が大切なことも適宜話している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 全員トイレで排泄している。その人に応じて布パンツ、紙パンツ、パット(大小)を使い分け、ごみの減量と経済面にも配慮している。自立の人にもパットの裏表がひと目で分るものを使い排泄の失敗を少なくし、清潔保持に努めている。排泄記録を元にトイレ誘導をさりげなく行っている。	
			(外部評価) 日中は、全員トイレでの排泄ができるよう支援している。排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら利用者の状態に応じた排泄の支援を行っている。夜間オムツ使用の方も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 適切な水分補給、食物繊維の摂取、散歩、体操などをおこなっているが、下剤を飲んでいる人は多い。下剤の管理調整を個人別にチェックし、便秘、下痢にならないように気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 当日の体調や本人の希望を聞きながら、一人ずつゆっくりと楽しんで入浴ができるように安全面に気をつけ支援している。入浴は1対1のコミュニケーションの場としても捉えている。	
			(外部評価) 週3回入浴できるように体制を築いている。利用者は、全員お風呂が好きである。家庭の浴室に近い個室では、利用者と1対1でじっくり向き合う事ができるため、利用者の思いが聞けたり、新しい発見がある場面でもあり、職員はゆったりリラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の明かりの調節、冷暖房の管理、寝具の調節を適宜おこなっている。昼間、夜間を問わずその人のペースで休息安眠できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用している薬の効果や副作用が個人ファイルで確認できる。薬の変更は個人記録と申し送りで職員がわかるようにしている。誤薬のないようにその都度名前を確認し、完全に服薬したかを確認する。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれが持てる力が発揮している。掃除、洗濯物たみ、畑の草引き、花の水遣りなど、日常生活での役割を分担し職員と共に行っている。散歩や買い物、通院にも通り道を変えて裏通りを通ると昔の記憶を思い出し懐かしがったり、当時の話を雄弁に語るなど嬉々とした表情が見られる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は努めて外に出るようにしている。庭先での日向ぼっこ、車椅子での散歩、地域内外のイベント参加、行楽シーズン中の全員参加の花見、ドライブ、他施設へのイベント参加、ボランティアの散歩支援等、家族の外出支援もたまにはある。	
			(外部評価) 自然に恵まれた環境を生かし、日常的に散歩に出かけたり日光浴をしている。また、外出の機会として年間行事予定に花見等が計画されている。入居者は重度化してきており、外出時には休みの職員がボランティアで協力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には管理者が小遣いとして預かり管理しているが、数名の方は少額を持っている人もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 面会が多いので、手紙や電話はほとんどない。自分で電話をかけることが出来る人は少ない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 明るく清潔で温度、換気、消臭などに気を配りながら、気持ちよく過ごせるようにしている。行事等の写真を貼ったり、季節の花を掛け生活感を味わえるように配慮している。</p> <p>(外部評価) リビング兼食堂は、自然光で明るく、ソファや畳敷きの空間もあり利用者が思い思いの場所でゆったりと寛いでいる。床暖房になっており冬場も過ごしやすい。利用者は大半の時間をリビングで過ごし、みんなでテレビを見たり談笑している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファに座る位置、食堂の椅子、それぞれ思い思いの居場所があり、話をする人、テレビを見る人、居眠りをする人と寛いだ雰囲気で過ごされる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時に使い慣れた物を持ってきて頂くようにしている。季節の花を飾ったり、仏壇を持参されたり、家族の写真を飾るなどそれぞれの好みや生活感が出るように環境作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやクローゼット、エアコン、空気清浄器が設置されている。ベッドを好まない利用者には畳を敷き、布団を使用する等、状態に応じて対応している。今までの生活習慣をできるだけ変えないよう仏壇を持ち込む等、安心して過ごせるよう努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 居室、廊下、トイレ、浴室、玄関、非常階段などには手すりを設置して、安全面と身体機能の維持に配慮している。トイレや居室には、その人の目線に合わせた目印をつけ場所が分るようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400016
法人名	原井川建設有限会社
事業所名	グループホームあいの里
所在地	西予市野村町阿下6号588番地
自己評価作成日	平成24年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいの里は野村町の中心部を見下ろせる高台にあり、静かなところです。ホーム内は温かな、ゆったりとした雰囲気です。みんなが仲良く暮らしています。ホームの周りには広い菜園があり、社長自らが季節の野菜を沢山栽培してもらっている。利用者も手伝をして、作る喜び、食べる喜びを共有している。地域の方やボランティアの訪問が多くあり、楽しい時間を過ごせています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にある当事業所は、四季の移ろいを肌で感じる事ができる。広々とした敷地には畑を作り、季節の野菜が数多く育っている。管理者を中心に全職員が「あいの里は、みんなが一つの家族です」の基本理念に沿い、事業所をひとつの大きな家族として考え、利用者や家族の思い、意向を大切にしながら、穏やかに楽しく暮らしていけるよう支援している。事業所の代表者、管理者、職員がしっかりと情報交換ができています。利用者の生活を職員がしっかりと支えている。落ち着いた家庭的な雰囲気のある事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームあいの里

(ユニット名) 2F(ひまわり)

記入者(管理者)

氏名 松本光枝

評価完了日

H23年12月20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の「1つの家族」を意識しながら利用者さんと共に生活している。また、気持ちの良い挨拶ができるように心がけている。	
			(外部評価) 管理者の信念でもある「あいの里はみんなが一つの家族です」は、事業所をひとつの家族と考え、地域とのつながりや利用者の思いを大切にしたい理念となっている。理念を基に事業所の毎年の目標、さらに、職員一人ひとりが目標を立て、月1回の職員会議の際に共通認識を持ち「家庭的な雰囲気へのケア」の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣のお祭りや行事には、ボランティアの協力を得ながら参加をしたり、来て頂いたりしている。	
			(外部評価) 自治会に加入し、地域の一員としての役割を担うとともに、行事を把握して地域の草刈りや清掃活動等に代表者が積極的に参加している。また、事業所内の交流館で行われる演芸会開催時は、地域の方に呼びかけて大勢の参加で賑わう等、日常的に交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 交流館があることで町内外から、時には県外からも演芸ボランティアの慰問がある。近所にも声をかけて一緒に楽しみ交流することで、認知症に対する理解を深めてもらっている。また、講演会などを開催する時にも呼びかけを行い多くの方が参加頂いた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 定期的に会議を開催し、運営委員さんには気持ちよく 参加して頂いている。意見交換の場として活発な話し 合いができています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、事業所の実態報告、学習会、課題等 を報告したり、発展的な会議運営のため講演会や研修 会を会議と合わせて行う等工夫している。参加者から は意見も活発に出されていることが、丁寧な記録から 読み取ることができる。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	<p>(自己評価) 市担当者との関係は良好である。管理者が市の地域密 着型サービス運営推進委員をしており、情報を知り相 談ごとなども気軽にできる。</p> <p>(外部評価) 市担当者とは運営推進会議を通して利用者の支援上の 課題等について相談したり、介護認定更新の機会等を とらえ、利用者の暮らしぶりやニーズの具体的内容を 伝え連携を深めている。また、介護相談員が来訪し、 利用者の話を聞き相談に応じるなどしている。その内 容については事業所に報告してもらっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 外部研修会に参加し、内部の勉強会を行っている。非 常口の戸は利用者が転落の恐れがある場合は施錠して いる。</p> <p>(外部評価) 職員全員が身体拘束の弊害を理解し、拘束をしないケ アに取り組んでいる。また、日々の業務の中で利用者 との慣れからくる言葉の拘束について、職員間で常に 注意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についての外部研修に参加し、その資料を使って内部勉強会を行った。日々の生活の中で言葉の虐待はないか気をつけており、不適切な言葉は注意し合っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 入居前から日常生活支援を受けている利用者があり、入居後も支援が継続して受けられるように、関係者と連携をとっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に時間をとって説明を行い、納得を得ている。また、いつでも不安なことや心配事など気軽に相談できるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会時や担当からのお便りを通じて意見や要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通じて意見や要望をもらっている。また、家族の面会がよくあるため、生活の様子や健康状態を伝え要望を聞き取ることができている。遠隔地の家族には機会あるごとに電話で情報を伝えている。毎月「ホーム便り」を発行し、事業所の様子や利用者の生活状況を報告している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会の時に、社長も参加され意見や提案があれば直接言うことができる。	
			(外部評価) 法人代表者や管理者が、職員の意見を大切に考え十分聞いて反映させてくれることを職員も承知しており、職員会でも意見を言いやすい環境が整っている。職員からも「色々言っています」と笑顔で話があり、事業所を共に良くしていこうとする姿勢が伺われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務状況は逐一報告し把握している。給与面についても出来る限りの努力をしている。全職員に対する研修費の負担、市外の研修は交通費の支給、勤務扱い、時間外手当の支給、希望休のとれる人員確保に努めている。今年度からはインフルエンザの予防接種の補助、賞与の支給も実施している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修は年間スケジュールを立て、常勤、非常勤の区別なく参加でき、自社勉強会の実施、市内グループホーム連携事業への参加、資格取得への支援を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種研修会、相互研修会等を通じ交流する機会をつくることを積極的に支援している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者さんが入居されたら、早期にセンター方式を活用しながら、今までの暮らしぶりや本人の意向を聴くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時等に家族の話を聴くようにしている。担当者が毎月書くお便りにも、意見や要望を呼びかけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族の意見、スタッフの意見を取り込んだ対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として尊敬し、日々支えあい助け合い励ましあいながら共に生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者さんの担当を決め、面会時には話を聴いたり、毎月のお便りで近況を報告しより良い関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族さんが、本人の好きな食べ物を用意して来られ、一緒に食べられることがある。また、県外に在住の娘さんが帰省されると一緒に温泉宿に泊まりに行かれることもある。 (外部評価) 地域で暮らしてきた利用者が多く、馴染みの人達と出会える場所に出かけたり、招いたりしている。また、家族の面会が多くその人らしい生活習慣を維持できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクや体操でチームワークを深め、互いに労わり思いやりを持って接している。1F, 2Fの交流も行い互いに、行ったり来たりの関係で知人同士が懐かしそうに話をすることもある。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居時には、家族やケアマネ、転居施設に十分な情報を提供している。転居された施設や入院先の病院を訪ねている。また、葬儀に参列することもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 担当者が中心となり、本人家族の意向を確認しながら、ケアプランを作成しケア会議で検討している。	
			(外部評価) 職員は、日頃から利用者に関わる時間を大切にし、会話や表情の中から思いや意向の把握に努めている。入浴時等の介護現場で、思いや希望を聞かせてもらう等している。把握した内容は、申し送りノートや、個人ファイルに記録して職員全員で共有できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の訪問調査、担当ケアマネ、サービス事業者等からの情報や面会時の家族、友人、知人からも話を聞き情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で本人が拒否しない限り、出来ることは一緒に行っている。体操なども出来る範囲で身体を動かすように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者がモニタリングを行い、それを元にチームで話し合い課題を提起している。本人、家族の意向を反映した介護計画を作成している。	
			(外部評価) 担当職員と管理者が利用者や家族の意向を聞き、きめ細やかなアセスメントをし、介護計画の原案を作成して職員全員で検討している。完成した介護計画は、家族に説明して同意を得ている。毎月のケアカンファレンスで状況確認するとともに現状に応じて介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録は主に日勤、夜勤者が書いているが、担当の者が常に利用者の状況を把握できるように努めている。気づきや体調変化なども申し送り等で情報の共有に努め、介護計画の見直しに活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の希望に応じた外出支援、かかりつけ医の受診、町内外の専門医の受診介助、理美容室の援助などその時々々のニーズの添って対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域住民、各種ボランティア、中学、高校、地域の子供会、民生委員、介護相談員等他方面からの協力支援を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前からのかかりつけ医を継続して利用している。 通院介助はほぼ管理者が行っているが、町外は家族が 対応することもある。家族が対応する場合は、ホーム での様子がわかるように主治医に手紙を書くようにし ている。	
			(外部評価) 入居後も、利用者や家族が希望するかかりつけ医に受 診できるよう支援している。看護師である管理者が医 療関係者との窓口になり、利用者の健康管理を行って いる。受診介助はほとんど管理者が行い、診察結果を 家族に報告し、情報共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師は週1回来ている。個々の利用者と話をしてしな がら、体調観察し変化はないか見てもらっている。ス タッフも相談に乗ってもらい、適切なアドバイスをも らっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際には、こまめに病院を訪れ病棟看護師との 連携をとり、早期退院に向けてこまめな情報交換を 行っている。洗濯物なども取りに行きホームで洗濯を 行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの勉強会を看護師が講師になり実施した。しか し、現段階では看取りは難しいと思う。家族の意向を 確認しながら対応していく。	
			(外部評価) 入居時、看取りに関する指針に基づき事業所における 介護の考え方を説明している。マニュアルや医療連携 体制も整えている。しかし、現時点では看取りの経験 はなく、職員は少なからず終末期ケアに対して不安を 感じているため、学習を深めていきたいと考えてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署員指導の下、救急救命処置や応急手当の訓練を行っている。看護師による救急時の対応についての勉強会もおこなっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年間を通して定期的に避難訓練を実施している。夜間緊急連絡網の起動状況の確認も行い、近所の方の援助を受けることも確認できた。 (外部評価) 消防署の協力を得て行う避難訓練以外にも、事業所独自で自主訓練を行っている。運営推進会議を活用して災害時の協力を呼びかけ、地域と協力できるよう努めている。また、2階ユニットの入居者が重度化している傾向にあるため、職員だけの避難誘導には限界がある。	災害発生時には事業所職員だけの避難誘導に限界があることを地域の方にも理解してもらい、地域住民の方の参加や協力を得ながら避難訓練を実施し、利用者の安全誘導を確保することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の尊厳を大切にし、年配者を敬うような言葉かけに気をつけている (外部評価) 言葉遣いについては、会議においても時折触れて話し合っている。管理者は「綺麗な言葉をつかうと丁寧なケアができる」等、利用者に穏やかな口調で話しかけるよう心がけており、個人を尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自分の思いを伝えることができる人には、自己決定に応えられるように支援している。また、思いを伝えることが出来ない人については、じっくりと話を聴きその人の思いを知るように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人が希望されることを支援している。(戸外散歩、縫い物、趣味のぬり絵など)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分の好きな衣類を着用して頂けるように選んでもらうが、決められない場合は一緒に選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる方には下準備や片づけを一緒にするようにしている。本人や家族に好みの物を聞き、取り入れて食事の楽しみを感じるようにしている。ホームの菜園にも一緒に収穫に行き、それを食卓に載せている。家族からの差し入れも有難く頂いている。	
			(外部評価) 職員も利用者と一緒に食事を楽しんでおり、和やかな食事風景である。また、支援の必要な利用者には、職員が横に座りゆっくり、やさしく声かけして援助がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量を細かくチェックし、少ない場合は代替品を用意するなど気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来ない人は職員が援助して清潔維持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の排泄リズムをつかみ時間を見計らってトイレ誘導している。尿意のわからない人も日中はトイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 日中は、全員トイレでの排泄ができるよう支援している。排泄チェック表を活用しながら利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら利用者の状態に応じた排泄の支援を行っている。夜間オムツ使用の方も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々の排泄記録でチェックし、便秘にならないように気をつけている。下剤管理も適切におこなっている。散歩や適度な運動を行い、飲水量、食物繊維がとれるように心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴ができるように支援している。本人の希望や体調で増減もある。入浴できない場合は、清拭、着衣の交換をして清潔保持に努めている。	
			(外部評価) 週3回入浴できるように体制を築いている。利用者は、全員お風呂が好きである。家庭の浴室に近い個室では、利用者と1対1でじっくり向き合う事ができるため、利用者の思いが聞けたり、新しい発見がある場面でもあり、職員はゆったりリラックスできるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々にあわせて、室内の明かり、冷暖房の調節を行っている。布団や敷物の調節も適宜好みを聞き調節している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人ファイルに処方箋を綴じて、職員間で情報を共有している。薬の変更なども個人記録や申し送りで確認できるようにしている。服用状況はその都度確認し誤薬のないように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 元気な人は身体を動かす事、動けない人は座って出来ることなど、無理強いはせずやれること、やりたいことをしてもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は散歩、日光浴をしている。買い物や地域の行事などにも参加している。	
			(外部評価) 自然に恵まれた環境を生かし、日常的に散歩に出かけたり日光浴をしている。また、外出の機会として年間行事予定に花見等が計画されている。入居者は重度化してきており、外出時には休みの職員がボランティアで協力している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理ができる人は小額を所持している。買い物の希望があれば一緒に行き、自分で選んでもらったり、アドバイスなどしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば電話をかけることもあるが、先方からの取次ぎが多い。手紙を書く支援もおこなっていたが、今は難しくなってきた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用スペースは冬場は空気洗浄加湿器を活用し、温度湿度に気を配っている。掲示板には行事の写真や季節の折り紙などを飾り生活感をだしている。</p> <p>(外部評価) リビング兼食堂は、自然光で明るく、ソファや畳敷きの空間もあり利用者が思い思いの場所でゆったりと寛いでいる。床暖房になっており冬場も過ごしやすい。利用者は大半の時間をリビングで過ごし、みんなでテレビを見たり談笑している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 日中テレビを見る人はソファで過ごし、軽作業や趣味の事をする人は食堂のテーブルを活用するなど適宜好きな居場所で過ごしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各自の居室には、ホームで撮った行事の写真や家族が持ってきた写真を貼っている。使い慣れた物品を持ってきている方もある。家族が居室の飾り付けをされる人もある。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやクローゼット、エアコン、空気清浄器が設置されている。ベッドを好まない利用者には畳を敷き、布団を使用する等、状態に応じて対応している。今までの生活習慣をできるだけ変えないよう仏壇を持ち込む等、安心して過ごせるよう努めている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ホーム内は廊下、居室に手すりをつけ、目印などもつけている。歩行が困難な方は車椅子で対応しているが、すべてを介助するのではなく、福祉用具を活用し立位が取れるように支援するなど出来ること、出来るようなことを見極め支援をおこなっている。</p>	